



# 藤井浩人月刊マガジン

2021.7

## 蛍で照らす未来

7月。蛍の飛び交う季節は見納めとなり、日差しが強くなり蝉も鳴き始め夏らしい気候になってきました。自宅の近くでは、数匹の蛍を目撃することができましたが、三和町、伊深町では今年も数えきれない蛍の乱舞が楽しめました。

このような素晴らしい自然の観賞も、蛍が育まれる環境の維持、小学校での人工飼育活動、地域の皆さんの保護活動、蛍が見やすいように地元の人たちによる川沿いの草刈り整備など、多くの人たちの長年にわたる努力の積み重ねがあるからこそ、私たちは素晴らしい経験を享受することができています。蛍の保護活動が始まったのは昭和40年代だと聞いています。これから先も、このような素晴らしい自然環境を守り続けるために、私たちが活動に参加したり、新たな行動を始めることが必要ではないでしょうか。

## 藤井からの提案

蛍の保護活動とは対照的に、先日、蜂屋川の生物の生息状況を聞く機会がありました。その際、「ほとんどの生物が毎年、死滅してしまっている。」と驚きの結果でした。

美濃加茂市の広報によると、汚水処理人口普及率は99.2%（2015年）で、ほぼ全てのエリアに下水道が整備されました。これは、多額の予算が下水道整

備にかけられたため、昭和の一時期に比べ、川が綺麗になり、蛍などが戻って来るようになりました。

しかしながら、場所によっては生き物が死んでしまうような状況が続いています。ここまで綺麗になった地域の川で、地域の子どもたちが遊べるような環境に引き上げることに挑戦したいと私は強く思います。

私たちは川遊びといえ、いまだに長良川の方面へと出かけて行ってしまいます。

子どもたちが、すぐ近くの、目の前の川や小川で安心して遊べるような環境を整備することができたら、子どもたちは地域の自然や環境を守り繋いでいこうと思ってくれるのではないのでしょうか。

これまでの多くの人たちの努力で、河川は美しくなっています。何が必要か考え、行動できれば、難しくない未来だと、私は思いますが、皆さんはどう思われますか。

## 感染症と向き合う夏

感染症対策のための制限措置が少しずつ解除されていますが、以前のようにマスクを外して、大人数で楽しめるような日は、なかなか戻ってこない気がします。

今年の「中山道まつり」も、夏、秋両方のお祭りが中止となりました。これまで通りの夏のイベントを期待するのではなく、お仕事や家庭環境などが異なる、それぞれの立場の人が、今できる体験やレジャーを考え、一人ひとりが無理なく安心して楽しめるような夏となることを願うばかりです。

藤井浩人